

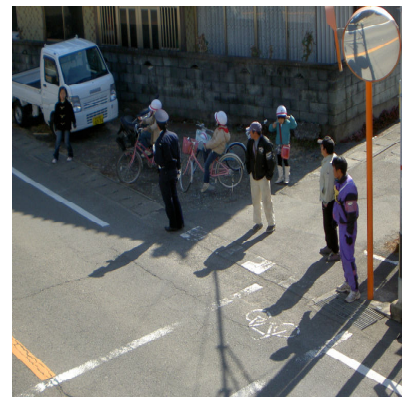


第57回高知県市町村対抗駅伝（安芸郡市体育会主催、高知陸協・高知新聞社・安芸郡市町村教委連絡協議会共催）が1月25日（日）、23市町村38チーム（1チームオープン出場）の出場を得て、室戸市をスタートし、国道55号を西進、安芸市をゴールにする前後半計8区間45.5kmで行われました。

レースは、前半を制した南国市Aチームが後半を制した高知市Aを総合タイムで上回り、3年ぶり14度目の優勝を飾り、最多優勝記録を更新しました。沿道には、地元の住民や各チームの応援、そして古くからの駅伝ファンなど多くの方々が駆けつけ、声援を送ってくれました。

この駅伝大会は、今年で57回目。なんと半世紀以上も続く、地域に根ざした地域スポーツの一大イベントなのです。そもそもきっかけは安芸AC（安芸アスレチッククラブ）が当時の高新駅伝競走で5連覇を成し遂げ、6連覇を目指し、新人発掘のために企画したもので、昭和28年3月に12チーム（安芸郡外4チーム）の参加による「町村駅伝」としてスタートしたそうです。それが回数を重ねる中で市町村関係者の賛同、支援を得て、ピーク時には47チーム（第54回大会）の参加を得るなど県下最大の駅伝競走に成長発展してきました。この長い歴史の中には、毎年繰りひろげられる市町村の名勝負、多くの名ランナーの激走などの記録が刻まれています。その栄光の記録の数々がこの大会を成長させてきたことはいまでもありませんが、毎年、大会を陰で支えるスタッフの努力も大会成長の大きな原動力になっています。

今年、この大会運営に携わったスタッフは約200人。安芸郡市体育会の役員はもとより、地域の陸上関係者や体育指導委員、学校の先生を中心にした教育関係者などの競技スタッフ、レースの安全対策に尽力してくれる警察関係者、地域の交通指導員などの運営スタッフ、また、選手の更衣などのために地元公民館や集会所の開放に協力してくれる住民の方々、駐車場やトイレを快く提供してくれる商店の方々…毎年、本当に多くの方々の協力のもとに支えられています。



優勝した南国市の関係者は、今回のレースにチームの「一体感」を自信の源に「普段の力を出して、タスキをつなげば」とレースに臨み、見事優勝しました。そして「地域をあげて協力してくれた人たちのおかげで勝てた」と結びました。一方、熱いレースを支えたスタッフも「大会を成功させるんだ」という思いの「タスキ」をしっかりとつなぎ、大会を成功させました。あらためて「地域をあげて協力してくれる人たちのおかげで大会が成長してきたんだ」と実感させられた第57回大会でした。